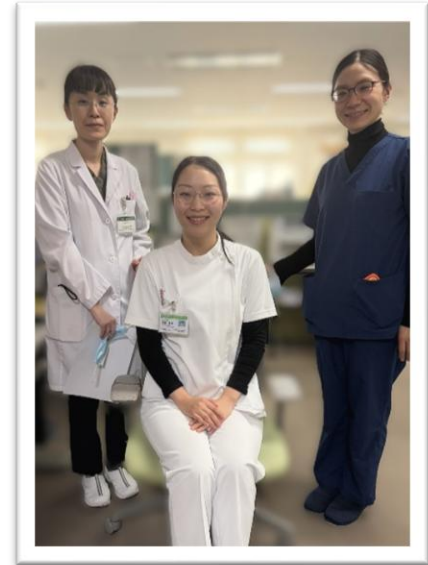


## 三沢市立三沢病院での内科実習を終えて

弘前大学医学部医学科5年 吉田 菜月

三沢での2週間の消化器内科実習は、私にとって非常に実り多く、将来の診療の基盤となる多くの学びを得る貴重な期間となりました。

まず何より心に残っているのは、三沢の医療スタッフの皆様の温かさです。実習という緊張感の中で病棟に足を踏み入れましたが、すれ違うたびにスタッフの方々が笑顔で挨拶をしてくださり、すぐに顔を覚えてお声がけいただいたことが大変嬉しく、安心感を持って日々の実習に臨むことができました。チーム医療における良好なコミュニケーションと、温かい職場環境がいかに重要であるかを肌で感じました。



手技の面では、初めて内視鏡を実際に触らせていただいたことが大きな経験となりました。これまで座学で学んできた粘膜の炎症や出血、腺腫などの基本的な所見を、実際の検査画面を通してリアルタイムで確認できたことで、知識がより立体的になりました。さらに、EMR（内視鏡的粘膜切除術）の手技を実際に体験させていただいたことは非常に印象深いです。単に手技を見学するだけでなく、自らの手を動かして身をもって学んだことで、内視鏡操作の繊細さや空間把握の難しさを実感するとともに、手技の要点がより深く頭に刻み込まれました。

また、本実習では初めて1人での問診を経験させていただきました。これまでは指導医の先生に同行して見学することが主でしたが、1人で患者さんと向き合うことは大きな挑戦でした。緊張の中ではありましたが、患者さんの訴えに耳を傾け、必要な情報を引き出しながら信頼関係を築くプロセスを実践できたことは、今後の臨床実習に向かっていく上で確かな自信へと繋がりました。

これらの実践的な経験を通じて最も強く感じたのは、患者さん1人ひとりに寄り添った診療の重要性です。先生方が疾患だけを診るのではなく、患者さんの不安を取り除き、それぞれの生活背景に合わせた丁寧な診療を行っている姿を間近で拝見しました。こうした日々の真摯な姿勢と温かい医療体制こそが、三沢の地域医療の強固な支えになっているのだと深く理解しました。

今回の2週間で得た手技の基礎、初めての問診で得た自信、そして地域医療を支える医師としての姿勢をしっかりと胸に刻み、今後の学習に必ず活かしてまいります。熱心にご指導いただいた先生方、温かく迎えてくださったスタッフの皆様、そしてご協力いただいた患者さんに心より御礼申し上げます。

実習期間：2026.3.23～2026.4.3